

令和7年度 第3回 佐藤小学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和7年12月12日(金) 13時25分から15時25分まで
2. 開催場所 浜松市立佐藤小学校 会議室
3. 出席委員 尾上 弘、酒井 里江子、湯山 紀美代、鈴木 涼介
4. 欠席委員 伊藤 安男、安富 小織、一ノ瀬 正行
5. 学 校 松下 欣美（校長）、高木 康泰（教頭）、大石 葉子（CS担当）、坂倉 祥子（CSディレクター）
6. 傍聴者 なし
7. 会議録作成者 CSディレクター 坂倉 祥子
8. 議長の選出

司会から、前回に引き続き尾上会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なく了承した。

9. 協議事項

- (1) 本年度の学校の様子・児童の様子から、学校・地域でできること
 - ① 相手のよさに気付き認め合う子に育てるために、地域・家庭でできること
 - ② 夢や目標を持つ子に育てるために、地域・家庭でできること

10. 会議記録

司会の教頭から、委員総数7人のうち4人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 本年度の学校の様子・児童の様子から、学校・地域でできること

議長の指示により、大石から、別紙資料に基づき、学校に関するアンケート結果について説明があった。続いて校長より、多様性の理解・尊重についての説明があり、これを来年度の方向性の軸にしたいとの考えが述べられた。これらを踏まえ、①相手のよさに気付き認め合う子に育てるために、地域・家庭でできること。②夢や目標を持つ子に育てるために、地域・家庭でできること。の2点について意見を求め、委員からは以下の発言があった。

① 相手のよさに気付き認め合う子に育てるために、地域・家庭でできること

尾上委員 一人一人異なる子供が、安心して集まる事ができる地域の居場所があると良い。周囲の意識が変わらなければ時間がかかるが、継続的な発信を行うことで理解が広がっていくのではないか。

湯山委員 従来からの価値観、固定的な考えはまだ残っているため、学校からの発信を通して理解を深めることが大切であり、今後も積極的な情報提供が必要だと感じる。

酒井委員 自分らしさを大切にし、自ら学び考えて行動する姿が大切であり、子供自身が自分の心を満たしていくことの重要性を感じた。

鈴木委員 困りごとは一人一人異なるため、個別に話を聞きながら過剰な対応にならないよう、学校・地域・家庭が共に学んでいくことが大切なのではないか。

尾上委員 多様な人と関わる中で、多様な意見や解決策が生まれることを体験的に学ばせることが出来たら良い。

熟議の結果、相手のよさに気付き認めあう子に育てるために、まずは校内での共通理解の土台を固めること。その上で学校だよりや回覧を通して保護者や地域へ段階的に情報発信や啓発を行っていくとともに、学校・地域・家庭が共に学び、体験を通じて理解を深めていくことが重要であることを確認した。

② 夢や目標を持つ子に育てるために、地域・家庭でできること

湯山委員 子供たちに様々な体験の機会を提供することが、関心を広げ、夢や目標を持つことに繋がるのではないか。

尾上委員 校内に掲示されている工芸品の学習内容を見ると、地元浜松の工芸品についてはあまり扱われていないように感じた。遠州綿紬や浜松注染など体験的な活動を取り入れながら、地域の特色も併せて学ぶことが出来たら良い。

熟議の結果、子供たちの夢や目標を育てるためには、体験を通して関心を広げるとともに、学校・地域・家庭が連携し、子供たちの夢や目標を温かく支えていくことを今後の取り組みの方向性とした。

その他報告事項

協議に先立ち、教頭より、本日の協議事項として予定していた（2）「SNSを中心に学校・家庭でできること」および（3）「学校支援ボランティアの充実」については、次回以降の協議事項とする旨の説明があった。

次回会議は、令和8年2月12日（木）9時00分から佐藤小学校会議室で開催する旨の報告があった。また今後の学校公開、参観会についての案内があった。